

令和元年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	重点目標	評価の観点	評価	アンケート結果						数値化		評価者
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	人数	%	
①基礎・基本の定着と 学習環境の整備	・本校独自の漢字・計算コンテストを実施し、児童の基礎的・基本的学力を定着させるように指導している。	漢字・計算						5			100%	教職員
		A							4	80%		
		B							1	20%		
		C							0	0%		
	・漢字、計算コンテストで合格できるように、一生懸命取り組んでいた。	漢字・計算						26			92%	保護者
		A	3	3	1	2	3	3	15	58%		
		B	2		1	1	4	1	9	35%		
		C			1				1	4%		
	・漢字・計算コンテストで満点が取れるように、一生懸命に取り組んだ。	漢字・計算						26			100%	児童
		A	5	3	3	1	7	3	22	85%		
		B				3		1	4	15%		
		C							0	0%		
	・学校の内外が、常に整頓された状態になっており、居心地の良い環境になっている。	環境整備						5			100%	教職員
		A							5	100%		
B								0	0%			
C								0	0%			
・学校の内外が、常に整頓された状態になっており、居心地の良い環境になっている。	環境整備						15			100%	地域	
	A							14	93%			
	B							1	7%			
	C							0	0%			
・机の中の学習道具の整理整頓ができています。	学習道具						26			85%	児童	
	A	5	1	1	1	4	1	13	50%			
	B		2	1	1	2	3	9	35%			
	C			1	2	1		4	15%			
・ランドセルの中や筆箱の中などの学習道具が整理整頓されている。	学習道具						26			50%	保護者	
	A				1	2	1	4	15%			
	B	3			2	2	2	9	35%			
	C	1	2	3		3	1	10	38%			
・児童の学習状況や生活が見て取れるように工夫した掲示ができています。	校内掲示						5			100%	教職員	
	A							4	80%			
	B							1	20%			
	C							0	0%			
②学習習慣の定着	・児童の「話す」「聞く」「書く」といった基本的な学習習慣を定着できるように指導している。	話す・聞く・書く						5			100%	教職員
		A							5	100%		
		B							0	0%		
		C							0	0%		
	・授業中、自分の意見を話すことができた。	話す						26			92%	児童
		A	5	3	3	1	1	2	15	58%		
		B				2	5	2	9	35%		
		C				1	1		2	8%		
	・丁寧な文字でわかりやすくノートを書いている。	書く						26			77%	児童
		A	1	1	1	1	3		7	27%		
		B	4	1	2	1	2	3	13	50%		
		C		1		2	1	1	5	19%		
	・児童が家庭で学習する習慣を身に付けさせる指導をしている。	家庭学習						5			100%	教職員
		A							3	60%		
B								2	40%			
C								0	0%			

確かな学力

③読書活動の推進	・宿題を忘れずに、家ですることができた。	家庭学習						26			92%	児童	
		A	4	1	1	1	6	4	17	65%			
		B	1	1	1	3	1		7	27%			
		C		1	1				2	8%			
		D							0	0%			
	・宿題などの家庭学習の習慣が身についている。	家庭学習						26			85%	保護者	
		A	4		1	2	4	3	14	54%			
		B	1	1	2	1	2	1	8	31%			
		C		2		1	1		4	15%			
		D							0	0%			
	④確かな学力の育成	・児童が学校や家庭で進んで読書をするように、読書の時間を確保したり、読書指導を充実したりすることができた。	読書指導						5			100%	教職員
			A						3	60%			
B									2	40%			
C									0	0%			
D									0	0%			
・学校や家でたくさん本を読んだ。		読書習慣						26			88%	児童	
		A	3	1	3	1	3	2	13	50%			
		B	1	2		2	4	1	10	38%			
		C	1			1		1	3	12%			
		D							0	0%			
・いろいろな本をたくさん読むようになり、読書の習慣が身についた。		読書習慣						26			46%	保護者	
		A	2		2	1	3	3	11	42%			
	B						1	1	4%				
	C	1	2	1	2	3		9	35%				
	D	2	1		1		1	5	19%				
④確かな学力の育成	・授業で児童が積極的に自分の意見を言えるような学び合いの場を設定した。	授業						5			100%	教職員	
		A						3	60%				
		B							2	40%			
		C							0	0%			
		D							0	0%			
	・授業が楽しく、分かりやすい。	授業						26			92%	児童	
		A	3	2	2	1	4	2	14	54%			
		B	2	1	1	2	2	2	10	38%			
		C				1	1		2	8%			
		D							0	0%			
	・授業が分かりやすく、内容もよく理解しているようだ。	授業						26			85%	保護者	
		A	3	1	1	1	1	1	8	31%			
B		2	2	1	2	5	2	14	54%				
C					1	1	1	3	12%				
D				1				1	4%				
・楽しくわかりやすい授業になるように、学習指導を工夫した。	学習指導の工夫						5			100%	教職員		
	A						4	80%					
	B							1	20%				
	C							0	0%				
	D							0	0%				
・学力向上タイムの内容を充実させ、ドリル学習が児童の学力向上につながるよう努力している。	レベルアップタイム						5			100%	教職員		
	A						3	60%					
	B							2	40%				
	C							0	0%				
	D							0	0%				

【結果分析】

①漢字・計算コンテスト等、基礎・基本の定着に努めることができ、児童・保護者共にその成果を実感することができた。学習環境の整備に努めることができたが、学習用具の整理・整頓については、半数の保護者が「できていない」と回答した。
 ②スクールプランの重点目標である「授業中、自分の意見を話すことができた。」については、92%の児童が「できた」と回答しており、目標値の80%を大きく上回った。また、家庭学習の習慣もよく身につけている。一方で、「丁寧な文字でわかりやすくノートを書いている。」ことに課題が見られた。
 ③「学校や家でたくさん本を読んだ。」児童は88%で、スクールプランの目標値85%を上回った。しかし、保護者の回答は46%で、家庭での読書習慣が身についたとは言えない。週末読書はしているはずだが、学年にふさわしい本を読んでいないのか、同じ本ばかり読んでいることが考えられる。
 ④スクールプランの重点目標である「授業がよくわかる」は92%で、目標値85%を上回った。保護者回答も85%で、昨年度の77%から伸びた。引き続き、授業研究を重ね、確かな学力の育成に努めたい。

【対応策】

①学習用具の整理整頓は、できている児童とそうでない児童の差が大きい。できていない児童に対しては、個別に指導していく。まず、お便りファイルに学校からの配布物をきちんと入れることから指導していく。
 ②「書く」ことについては、4年生以上で「できていない」と回答した児童が多いことから、学習量が増え、ゆっくりとノートを書いている時間が無いことも考えられる。学年に応じたノート指導を行うように努める。また、いい加減な文字を書いている時は、書き直しをさせるなど指導を行う。
 ③学校で積極的に読書指導を行っていく。特に、選書指導を行い、読む本の幅を広げていきたい。また、お気に入りの本を紹介し合ったり、感想を言い合ったりする活動も取り入れていきたい。

令和元年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	重点目標	評価の観点	評価	アンケート結果						数値化		評価者
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	人数	%	
① 気持ちのよい挨拶の習慣化	・時と場に応じた心のこもった挨拶ができるように指導している。	挨拶指導				6				100%	教職員	
		A					5	83%				
		B					1	17%				
		C					0	0%				
		D					0	0%				
	・相手を見て、進んで挨拶をすることができた。	挨拶				26				96%	児童	
		A	4	3	2	1	3	3	16			62%
		B	1		1	2	4	1	9			35%
		C				1			1			4%
		D							0			0%
	・家で朝夕の挨拶や食事の挨拶ができています。	挨拶				26				77%	保護者	
		A	4	1	1	2	1	3	12			46%
		B	1	1	1	1	4		8			31%
		C		1	1		2		4			15%
		D				1		1	2			8%
	・児童は登下校時に進んで挨拶ができています。	挨拶				14				100%	地域	
A						5	36%					
B						9	64%					
C						0	0%					
D						0	0%					
② 聞く力の育成	・人の話をよく聞く力を育成している。	聞く力				5				100%	教職員	
		A					2	40%				
		B					3	60%				
		C					0	0%				
		D					0	0%				
	・友達の話をよく聞くことができた。	聞く力				26				100%	児童	
		A	5	3	3	2	4	3	20			77%
		B				2	3	1	6			23%
		C							0			0%
		D							0			0%
	・人の話をよく聞く力が育っている。	聞く力				26				62%	保護者	
		A	2			1		3	6			23%
		B	2	1	1	2	4		10			38%
		C	1	2	2	1	3		9			35%
		D						1	1			4%
	・児童は人の話をよく聞き、その内容に対して自分なりに応答する力が育っている。	応答する力				14				100%	地域	
A						8	57%					
B						6	43%					
C						0	0%					
D						0	0%					
③ 主体的に考えて工夫する力の育成	・児童が自主的、主体的に活動する場や機会を設定し、主体性の育成に努めた。	主体性				6				100%	教職員	
		A					5	83%				
		B					1	17%				
		C					0	0%				
		D					0	0%				
	・学級会や係の仕事、委員会やクラブ活動などで、自分で考えたり工夫したりして活動することができた。	主体性				26				88%	児童	
		A	3	2	1		5	2	13			50%
		B	2	1	1	2	2	2	10			38%
		C			1	2			3			12%
		D							0			0%
	・家で決まった仕事に取り組んでいる。	主体性				26				35%	保護者	
		A			1			2	3			12%
		B	2	1		1	1	1	6			23%
		C	2	1	2	2	6	1	14			54%
		D	1	1		1			3			12%
	いじめを早期発見できるように、定期的にアンケートや面談を実施している。	未然防止				5				100%	教職員	
A						4	80%					
B						1	20%					
C						0	0%					
D						0	0%					
月1回の児童に関する情報交換を行い、学校全体でいじめ防止に取り組むことができています。	未然防止				5				100%	教職員		
	A					5	100%					
	B					0	0%					
	C					0	0%					
	D					0	0%					

豊かな心

④ 学校生活不適應の未然防止	友達の役に立ったり、喜んでもらったりすることがあった。	集団づくり						26			88%	児童
		A	2	3	2	1	5	13	50%			
		B	2		1	2	1	4	10	38%		
		C	1			1	1		3	12%		
		D							0	0%		
	安心して生活できる場としての学級づくりを行ってきた。	集団づくり						4			100%	教職員
		A						3	75%			
		B						1	25%			
		C						0	0%			
		D						0	0%			
	自己有用感の育成を目指し、仲間づくりの活動を行ってきた。	集団づくり						6			100%	教職員
		A						5	83%			
		B						1	17%			
		C						0	0%			
		D						0	0%			
	毎日学校へ行くのが楽しい。	自己肯定感						26			100%	児童
	A	5	3	2	2	4	3	19	73%			
	B			1	2	3	1	7	27%			
	C							0	0%			
	D							0	0%			
アンケートや面談で、悩みや不安を先生に伝えることができた。	絆づくり						26			92%	児童	
	A	4	3	2	1	3	3	16	62%			
	B	1		1	2	3	1	8	31%			
	C				1	1		2	8%			
	D							0	0%			
学校に行くのを喜んでおり、不登校の傾向は感じない。	自己肯定感						26			96%	保護者	
	A	4	2	1	1	2	1	11	42%			
	B	1	1	2	2	5	3	14	54%			
	C				1			1	4%			
	D							0	0%			
学校は、アンケートや面談を定期的実施する等、児童の不安等を把握する取組を行っている。	未然防止						26			92%	保護者	
	A	4		1	1	2	2	10	38%			
	B	1	3	2	3	4	1	14	54%			
	C					1	1	2	8%			
	D							0	0%			
悪口や仲間外れなど、いじめのない学校だと思う。	いじめ						26			92%	保護者	
	A	5	1		2	1	1	10	38%			
	B		2	2	2	5	3	14	54%			
	C			1		1		2	8%			
	D							0	0%			
悪口や仲間外れがなく、いじめのない学校だと思う。	いじめ						26			100%	児童	
	A	4	3	1	1	5	1	15	58%			
	B	1		2	3	2	3	11	42%			
	C							0	0%			
	D							0	0%			
児童は、人を傷つけるような言動を行わず、楽しく学校生活を送っている。	人権						13			100%	地域	
	A							10	77%			
	B							3	23%			
	C							0	0%			
	D							0	0%			
登場人物の道徳的課題を自分の事として捉え、考え続けられる質の高い道徳の授業を目指した。	道徳						4			75%	教職員	
	A							3	75%			
	B							0	0%			
	C							1	25%			
	D							0	0%			
道徳の時間は、自分のことや友達のことなどを一生懸命考え発表することができた。	道徳						26			96%	児童	
	A		1	2	1	5	3	12	46%			
	B	5	2	1	2	2	1	13	50%			
	C				1			1	4%			
	D							0	0%			
【結果分析】												
①スクールプラン重点目標の「すすんであいさつができる」児童は96%で、目標値90%を上回った。また、「児童は登下校時の挨拶ができている」と答えた地域の方は100%だった。しかし、「家で挨拶ができている」と答えた保護者は77%にとどまった。												
②「聞く力」に関して、児童、地域の方、教職員の肯定的回答が100%だったのに対し、保護者は62%だった。保護者の方にとっては、児童の「聞く力」はまだ十分とは言えないようである。昨年度と比較してもさらに下がっている。												
③スクールプラン重点目標である「友達の役に立ったり、喜んでもらったりすることがある」と答えた児童は88%で、目標値85%を上回った。また、いじめ未然防止の取り組みや安心して過ごせる学級づくりにも努めることができた。一方で、「家での仕事」に肯定的回答をした保護者は35%と極めて低かった。												
④スクールプラン重点目標「学校が楽しい」と答えた児童は100%で、目標値85%を大きく上回った。昨年度と比較しても伸びている。「いじめがない」と答えた児童も100%で安心して過ごせる学校づくりができている。「質の高い道徳授業」での教職員の肯定的回答は、75%とやや低かった。												
【対応策】												
①学校でも登下校時の玄関前の挨拶はしっかりできるが、見守りボランティアや来客の方に対する挨拶は十分できていない。人に会ったらいつでもきちんとして挨拶ができるよう引き続き指導していく。また、家庭でもしっかり挨拶ができるよう保護者と連携しながら取り組んでいく。												
②家庭では、聞いたことに対してしっかりと反応できていないことも考えられる。保護者の方に家庭での児童の様子を聞き、学校で指導できるところはきちんと指導していく。												
③家庭で決まった仕事をしていない児童が多い。大げさなことでなくとも毎日続けられるお手伝いのメニューを紹介したり、お手伝いを続けている児童をみんなの前でほめたりして動機づけを図りたい。道徳科でも家庭での一員としての自覚を高める授業を行いたい。												
④昨年度から教科として位置づけられている道徳は、本校の研究推進の中心教科である。「登場人物の道徳的課題を自分の事として捉える」ことは、特に低学年には難しいが、今後も学校全体で研究を重ね、質の高い道徳授業づくりを目指していきたい。												

令和元年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	重点目標	評価の観点	評価	1年	2年	3年	4年	5年	6年	アンケート結果		数値化 A+B	評価者
										人数	%		
健やかな体	①運動	運動することが好きだ。	運動						26		96%	児童	
			A	4	2	2	3	4	3	18			69%
			B	1	1	1		3	1	7			27%
			C				1			1			4%
			D							0			0%
		健康						26		77%	保護者		
	A	5	2		3	4	2	16	62%				
	B		1	1			2	4	15%				
	C			2	1	3		6	23%				
	D							0	0%				
	運動することが好きになるよう指導を工夫した。	運動						7		100%	教職員		
		A							3			43%	
B								4	57%				
C								0	0%				
D							0	0%					
②健康	「早寝・早起き・朝ご飯」の生活習慣が身に付くように指導している。	健康						6		100%	教職員		
		A							5			83%	
		B							1			17%	
		C							0			0%	
	D							0	0%				
	学年で決められた就寝時刻を守ることができた。	健康						26		88%	児童		
		A	3		3	1	4	1	12			46%	
		B	2	2		2	2	3	11			42%	
		C		1		1	1		3			12%	
	D							0	0%				
	学年で決められた就寝時間を守っている。 (1. 2年生9:00まで、3. 4年生9:30まで、5. 6年生10:00まで)	健康						26		81%	保護者		
		A	3		1	2	2		8			31%	
B		2	2	2	1	4	2	13	50%				
C			1			1	1	3	12%				
D				1		1	2	8%					
児童が帰宅後や休日等、体を動かしている遊ぶことや運動に親しむように指導している。	健康						7		100%	教職員			
	A							2			29%		
	B							5			71%		
	C							0			0%		
D							0	0%					
③情報	スマホ等、通信機器の利用に関するルールを守るように指導している。	情報						6		100%	教職員		
		A							5			83%	
		B							1			17%	
		C							0			0%	
	D							0	0%				
	ゲームやインターネットなどを使用する時は、家や学校で決めたルールを守ることができた。	情報						26		88%	児童		
		A	3	1	3	2	5	3	17			65%	
		B	1			2	2	1	6			23%	
		C	1	2					3			12%	
	D							0	0%				
	ゲームやインターネットなどを使用するときは、家や学校で決めたルールを守っている。	情報						26		73%	保護者		
		A	5		2	3	2	1	13			50%	
B			3			2	1	6	23%				
C						3	1	4	15%				
D			1	1		1	3	12%					
④安全	避難訓練、登下校指導などを通して、児童が自分で身を守るように安全教育を行っている。	安全						6		100%	教職員		
		A							4			67%	
		B							2			33%	
		C							0			0%	
	D							0	0%				
	交通安全に気を付けて、登下校できた。	安全						26		100%	児童		
		A	5	3	3	3	6	4	24			92%	
		B				1	1		2			8%	
		C							0			0%	
	D							0	0%				
	交通安全に気を付けて、登下校している。	安全						26		100%	保護者		
		A	5	1	1	4	4	3	18			69%	
B			2	2		3	1	8	31%				
C								0	0%				
D							0	0%					

【結果分析】
 ①本年度から「運動」の項目を加えた。重点目標として挙げた「運動することが好き」と答えた児童は96%で、目標の85%を上回った。保護者の肯定的回答は77%とやや低かった。
 ②「就寝時刻を守る」ことのできた児童は88%で、昨年度の73%から増えた。保護者の肯定的回答は81%で、数々に課題が見られるものの概ね良好な結果だった。家庭で意識して取り組んでいたおかげである。
 ③ゲーム・インターネット使用のルールについて、児童と保護者の回答にずれが見られた。低学年は、肯定的回答をした保護者が増えたので、現状を維持していきたい。ルールが家庭によって違うので一概には比較できないが、3年生以上では、極めて低い保護者回答もある

【対応策】
 ①家庭では、なかなか児童の運動する姿を見ないことも低かった原因として考えられるので、学校で運動に親しんでいる様子をブログやお便りで紹介していきたい。また、体育の授業や業間マラソン、縄跳びの様子も積極的に参観日等で公開したい。
 ③3学期に期日を決めて、全校一斉にスマートルールの振り返りを行う。その後、「スマホ・ゲームのお約束キット」を使って、10日間の強化期間を設ける。ルール見直しについて、保護者への呼びかけも行う。

令和元年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	重点目標	評価の観点	評価	1年						アンケート結果		数値化 A+B	評価者
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	人数	%		
家庭・地域との連携	①家庭との協働	保護者との連携 ・電話連絡や家庭訪問などを実施し、保護者と連携しながら指導を推進できた。	保護者との連携						6			100%	教職員
			A							5	83%		
			B							1	17%		
			C							0	0%		
		D							0	0%			
		学校と家庭の協力 ・連絡帳や電話などを使って、学校と連絡を密にして、学校と家庭が協力して教育を進められた。	学校と家庭の協力						26			92%	保護者
			A	5	1	2	3	2	2	15	58%		
			B		2	1	1	4	1	9	35%		
	C						1	1	2	8%			
	D							0	0%				
	情報発信 ・学校だより、学級だより等を発行し、学校や学級の様子を情報発信することができた。	情報発信						6			100%	教職員	
		A							6	100%			
		B							0	0%			
		C							0	0%			
	D							0	0%				
	学校だより ・学校だより、学校ブログや学級だより等の各種お便りを通じて、児童の学校生活の様子などがよく伝わってきた。	学校だより						26			92%	保護者	
A		5	1	1	3	4	2	16	62%				
B			2	2	1	2	1	8	31%				
C						1	1	2	8%				
D							0	0%					
②地域の教育力を生かした教育活動	ふるさと学習 ・地域の自然や施設、地域の人材を活用した授業や活動を実施し、ふるさとへの意識を高めることができた。	ふるさと学習						6			100%	教職員	
		A							6	100%			
		B							0	0%			
		C							0	0%			
	D							0	0%				
	ふるさと学習 ・学校では、熊川地区の自然、文化などに触れる学習を積極的に行い効果を上げている。	ふるさと学習						26			100%	保護者	
		A	5	3	2	3	4	3	20	77%			
		B			1	1	3	1	6	23%			
		C							0	0%			
	D							0	0%				
	ふるさと学習 ・学校では、熊川地区の自然、文化などに触れる学習を積極的に行い効果を上げている。	ふるさと学習						15			100%	地域	
		A							15	100%			
B								0	0%				
C								0	0%				
D							0	0%					
③地域への積極的協力	地域との協力 ・熊川地区の諸活動に対して、学校として積極的に協力をを行っている。	地域との協力						6			100%	教職員	
		A							5	83%			
		B							1	17%			
		C							0	0%			
	D							0	0%				
	地域との協力 ・熊川地区の諸活動に対して、学校として積極的に協力している。	地域との協力						15			100%	地域	
		A							15	100%			
		B							0	0%			
C								0	0%				
D							0	0%					
④地域との安全教育	安全教育 ・学校の行っている安全教育や安全対策は、効果を発揮していると感じる。	安全教育						26			96%	保護者	
		A	5	3	1	3	2	1	15	58%			
		B			2	1	4	3	10	38%			
		C					1		1	4%			
	D							0	0%				
	安全教育 ・学校の行っている安全教育や安全対策は、効果を発揮していると感じる。	安全教育						15			100%	地域	
		A							14	93%			
		B							1	7%			
C								0	0%				
D							0	0%					

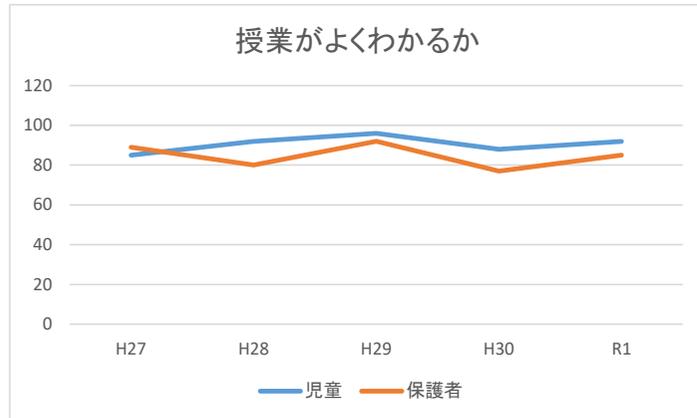
【結果分析】
どの項目も、地域の方、保護者、教職員の評価結果は高かった。スクールプランの重点目標である「家庭との連絡を密にしている」「地域との連携を密にしている」「情報発信に満足している」は、目標値90%を上回った。

【対応策】
引き続き、家庭・地域との連携を密にし、様々な教育活動を推進していく。評価結果は高かったが、地域の方や保護者の方と話し合いながら、改善すべきところは改善していく。

【学力の向上】

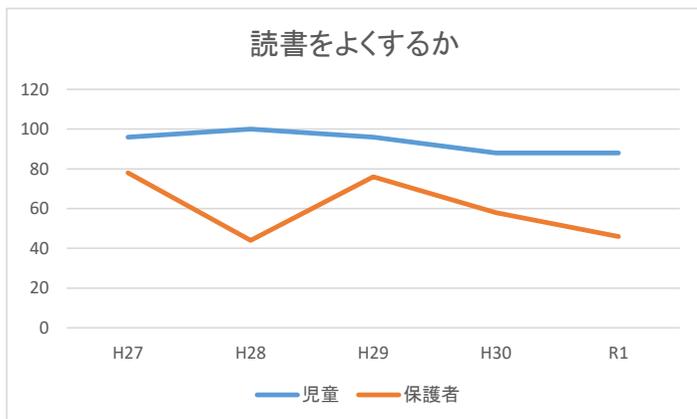
①授業理解

	H27	H28	H29	H30	R1
児童	85	92	96	88	92
保護者	89	80	92	77	85



②読書習慣

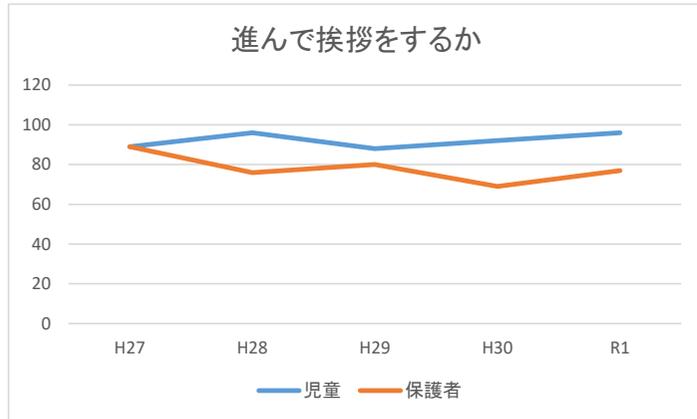
	H27	H28	H29	H30	R1
児童	96	100	96	88	88
保護者	78	44	76	58	46



【豊かな心】

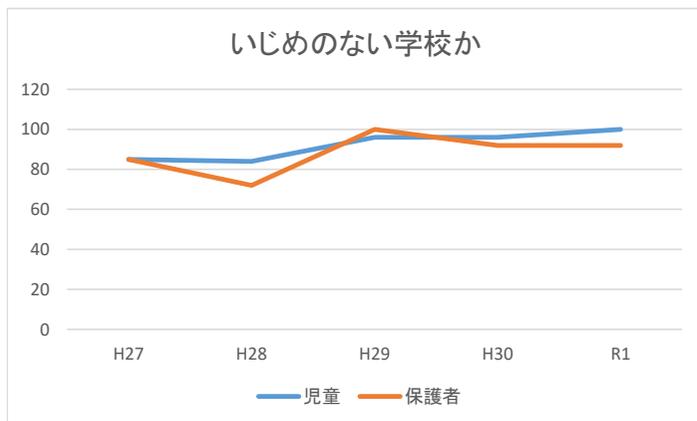
① 挨拶

	H27	H28	H29	H30	R1	
児童	89	96	88	92	96	
保護者	89	76	80	69	77	



② いじめ

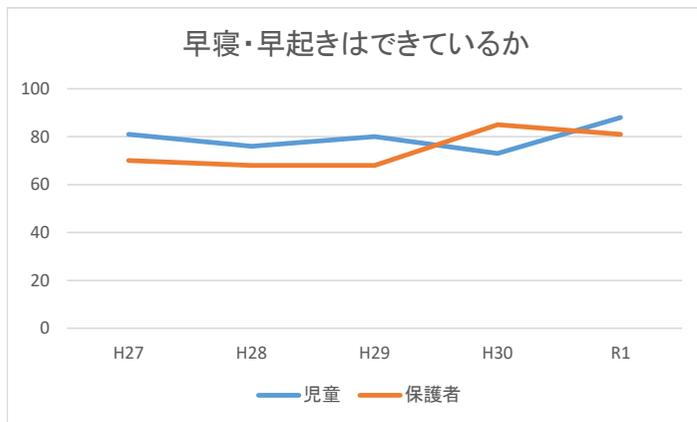
	H27	H28	H29	H30	R1	
児童	85	84	96	96	100	
保護者	85	72	100	92	92	



【健康な心と体づくり】

① 生活習慣

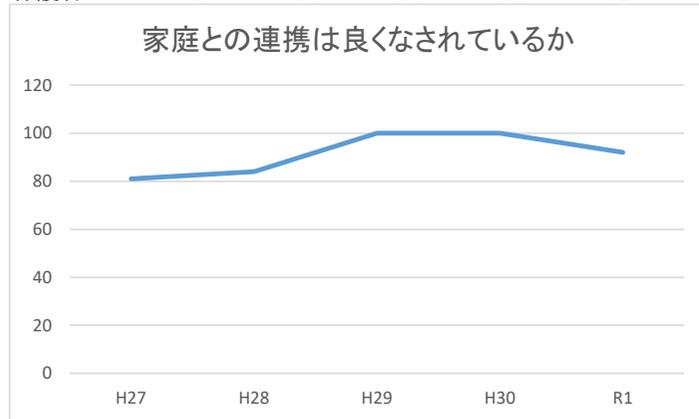
	H27	H28	H29	H30	R1	
児童	81	76	80	73	88	
保護者	70	68	68	85	81	



【家庭・地域との連携】

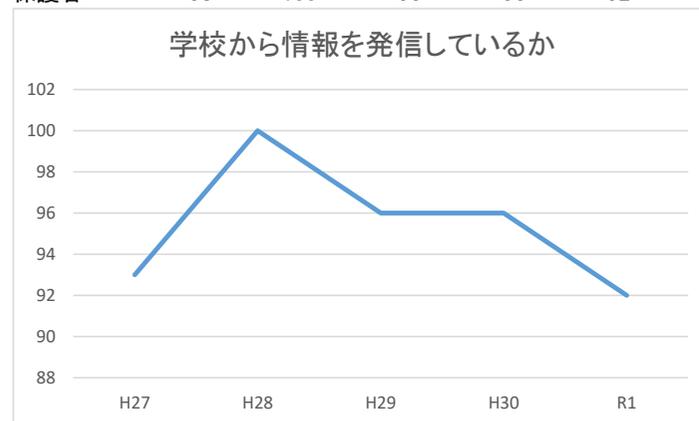
① 家庭との連携

保護者 H27 81 H28 84 H29 100 H30 100 R1 92



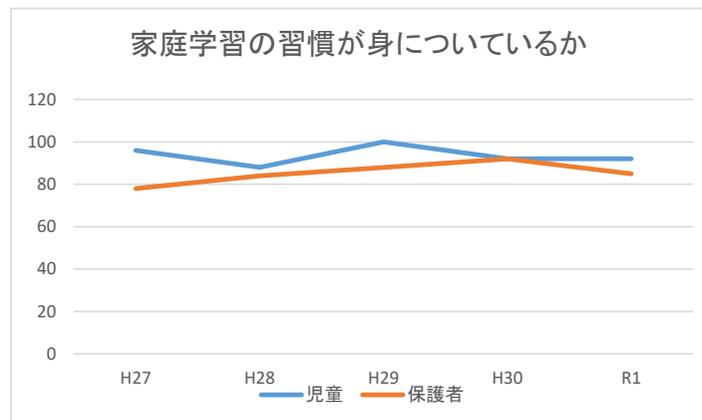
② 情報発信

保護者 H27 93 H28 100 H29 96 H30 96 R1 92



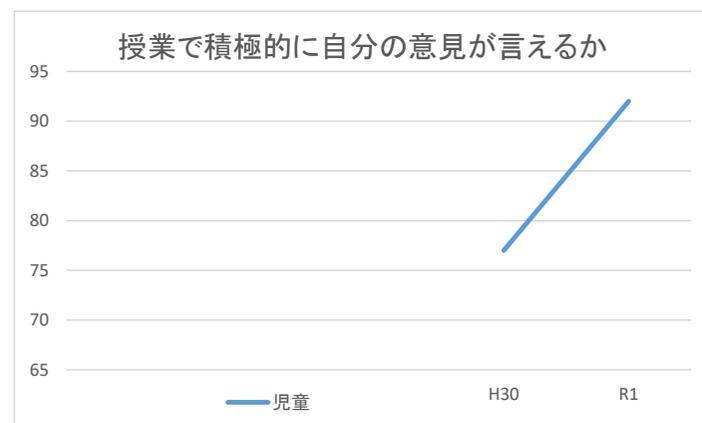
③ 家庭学習

	H27	H28	H29	H30	R1
児童	96	88	100	92	92
保護者	78	84	88	92	85



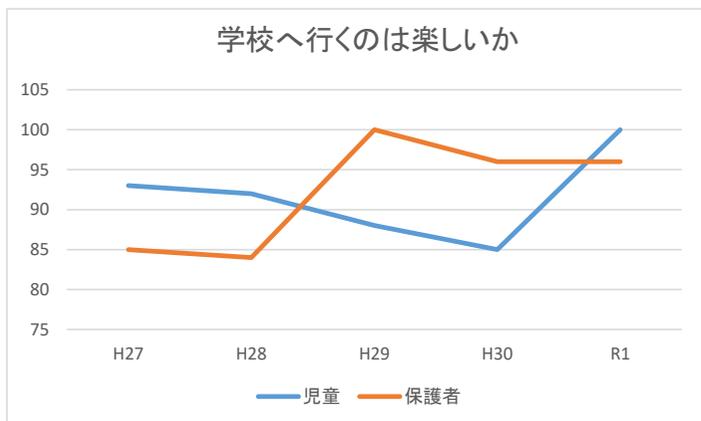
④ 積極的発言

	H30	R1
児童	77	92



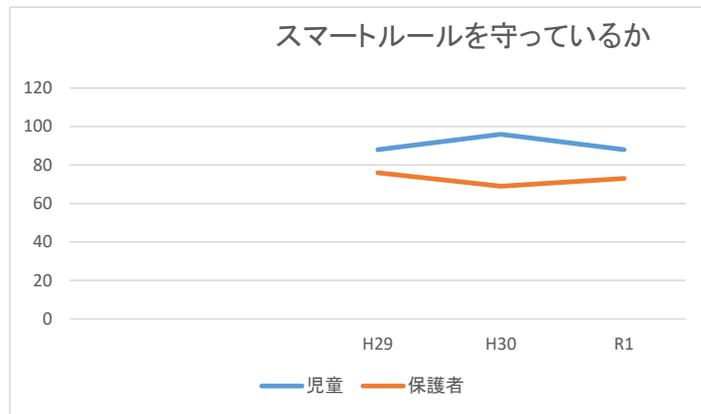
③ 不登校

	H27	H28	H29	H30	R1	
児童	93	92	88	85	85	100
保護者	85	84	100	96	96	96



② メディア活用

	H29	H30	R1
児童	88	96	88
保護者	76	69	73



③ 地域との連携

